

鶏、保健衛生行政、第1部

管内採卵鶏農場における異常鶏対応改善にむけた取り組み

中央家畜保健衛生所 いわたあみ 岩田亜美 ほか

【はじめに】管内A農場は、セミウインドウレス鶏舎に種鶏及び採卵鶏約2万5000羽を飼養し、獣医師2名を含む従業員約30名で独自の農場マニュアルに基づく飼養衛生管理を行っている。

令和元年6月、A農場より高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）簡易検査陽性の通報があり、立入検査及び精密検査の結果、HPAIは否定され給水不足が原因と判断した。今回の立入では、農場到着から検査を終え農場を出発するまでに他の通報事例の2倍以上の時間を要した。今後より迅速に対応するため、家畜保健衛生所（家保）及びA農場双方が一連の対応を検証し、異常鶏対応改善に取り組んだのでその概要を報告する。

【課題】家保及びA農場で今回の異常鶏対応を検証した結果、次の課題が見つかった。

課題① 農場内が携帯電話の電波圏外であり、現地調査班、検体輸送班及び当該家保の間で連絡が密に取れなかったことから、他の連絡手段確保が必要であった。

課題② A農場には物品の持込制限があったため農場内の検査物品を使用した。具体的な検査内容や必要物品等の情報提供が不十分で検査開始が遅れた。

課題③ 現行の農場マニュアルでは、異常鶏発見時の現場保存や陽性判定時の従業員の対応について明記されておらず、異常鶏発生時の想定が不十分であった。

【対応】課題①については、A農場内における連絡体制を確認したほか、通報時の持ち出し物品リストを見直し、連絡手段確保のためにトランシーバーを加えた。

課題②、③については、A農場から農場マニュアル改正への協力依頼を受け8月にA農場の衛生担当者と検討会を実施した際、参考として県要綱や通報時の持ち出し物品リスト等情報提供したほか、A農場の管理体制等の情報交換を行った。検討会では、改正の要点として、異常鶏発見時の報告ルールの明確化及び早期通報の徹底、検査時の必要物品の準備及び防疫措置中の従業員の動き等を検討し、農場で防疫作業シミュレーションを作成することとした。さらに、農場従業員に防疫作業内容を周知するため、10月に開催されたA農場内の防疫演習において、家保職員が発生時の防疫措置について説明した。現在A農場では、改正版農場マニュアルに従って飼養管理を行い、随時農場マニュアル及び防疫作業シミュレーションを精査して家保と共有する体制を構築している。

【今後の展望】今後は他農場の立入時に、HPAI発生時を想定した農場内の電波状況や夜間の農場内の様子について情報収集していくほか、農家の不安解消のため、農家に対しHPAI発生時の防疫措置やその後の対応について情報提供していく予定である。